

なら健康長寿基本計画推進戦略会議 議事概要

日 時：平成30年12月3日（月） 午後1時30分～午後3時30分

場 所：きらっ都・奈良 3階 会議室 （奈良市橋本町3-1）

議題1 なら健康長寿基本計画の中間見直しに対する評価について

議題2 今後の健康長寿施策についての提言

【委員発言概要】

- 健康行動無関心層対策
  - ・ 無関心層対策に必要なのはロコミ情報ということだが、ロコミの主体として自治会が大きな役割を果たしている。自治会との連携は市町村が多いが、県が直接働きかけて行くことを考え始めている。その中で健康行動をどうするか。（知事）
- 医療費適正化
  - ・ 糖尿病を自分で治療するように仕向けるような医療行動を促す医師の行動に診療報酬が加算できないか。加算できれば薬要らずで病気を治す医師が出てくるかも。（知事）
  - ・ がんなどの重病対策、精神病や人工透析などの長期医療が医療費を上げる大きな要因。医療費適正化の中で検査しておかなければならない問題。（吉本委員）
- 健康行動インセンティブ
  - ・ 健康行動の成果型支払として、地域・市町村別にポイント還元として国民健康保険料を下げるできないか検討する。生命保険料はなかなか難しい。（2回発言あり）（知事）
- なら健康長寿基礎調査
  - ・ 基礎調査について、同じ人で健康行動する人・しない人に分けて、前後2回調査して健康成果の有無を分析できないか。（知事）
- 心筋梗塞・脳卒中对策
  - ・ 心筋梗塞や脳卒中は急性期医療で後遺症は軽減できる。死亡率ではなく改善度を測ることが必要。急性期の死亡率は下がったとしても要介護度が非常に大きくなる可能性あり。（上田委員）
  - ・ 心筋梗塞と脳卒中の死亡率が良くなってる。がんと同じように。年代でどう下がってきたか測れるか。また、要介護期間が増えることについては、全体のKPIの本末をどこに求めるか。（知事）
- スポーツ推進
  - ・ 卓球は2人からできるので、総合型スポーツクラブなど大げさでなくても、わりと身近な運動習慣づくりになる。（知事）
  - ・ 奈良マラソンは、運動習慣をつけるという意味で効果的。年2回開催してもよい。運動習慣をつける意味合いで。（知事）

- ・ 市町村毎でなくても地域にウォーキングができる温水プールは必置だと思う。研究して、温水プールのような良いものを設置するという政策を展開できないか。民間でもよいが。(知事)
  - ・ いつでも誰でも楽しめるスポーツ、運動できる環境づくりは大切。(吉本委員)
  - ・ 高齢者の生きがいという観点から、スポーツと生きがいとし、「スポーツ生きがい計画」を体系化したらどうか。(知事)
- がん対策
- ・ がんの医療レベルが上がっているので、検診を受ければ救命率が上がってくるように思う。このように認識してもらう展開には課題がある。(知事)
  - ・ がん検診の受診率は、各市町村でずいぶん違う。各市町村に応じたきめ細かい対策が必要。(吉本委員)
  - ・ 検診受診率について、広報誌、ホームページ掲載、チラシ配布を一生懸命しているが、なかなか上がらないのが現状。中心的な人物をしっかりと養成した口コミでこれから取り組んでいきたい。(今中委員)
- 在宅・終末医療
- ・ 在宅医療、終末医療の取組がここでは少ない。どう看取っていくかが大きな課題。(吉本委員)
  - ・ 健康長寿基本計画の中で終末期医療の在り方や在宅医療も大事な点ではないか。(知事)
    - 基本計画・関連計画両方を議論と理解
  - ・ 終末医療として本人の治療意思確認カードを作成するなど、終末医療のあり方を研究テーマとして考えてほしい。(知事)
- 食育推進
- ・ 高齢者中心になっているが、子どもの健康、食育を考える必要がある。実践優先でやっていきたい。(知事)
- 協会けんぽとの連携
- ・ 協会けんぽに属している中小企業の健康経営に対する取り込みは非常に重要。ライフステージの中で、国保だけでなく協会けんぽと一体的にデータを見ながら取り組みを進める。
    - 中小企業への健康経営へのインセンティブ、仕掛けは政策的にあり得るのではないか。(久野委員)
  - ・ 民間でも公でも健康行動により成果が出ると医療費が下がる。協会けんぽと一緒に健康づくりを行うためのアプローチ方法を考えたい。(知事)
- その他
- ・ 限られた市町村と協働を組んで、県が入って何か保健行動をすることはありうる。色んなパターンでやれることをやる。(知事)